

かさかけ 公民館だより

編集
笠懸公民館編集協力員会
みどり市笠懸公民館
発行
みどり市笠懸公民館

〒379-2311
みどり市笠懸町阿左美1581-1
電話：0277-76-2211
FAX：0277-76-2836
Eメール：kouminkan
@city.midori.gunma.jp

地域コミュニティを支えていくリーダーに

笠懸町地区公民館長・主事を委嘱

令和4年度みどり市笠懸町地区公民館長および主事の委嘱状交付式と第1回笠懸町地区公民館連絡協議会全体会議が4月28日(木)に笠懸公民館で開催されました。

保志教育長から星館長(第1区)、久保田館長(第2区)と森田館長(第3区)に委嘱状が交付されました。

保志教育長はあいさつで「新型コロナウイルスの収束が見えず、苦慮する場面もあると思いますが、笠懸公民館に気軽に声をかけ



▲森田副会長、星会長、久保田副会長

ていただき共に考えていきたいと思っています。皆さんが行う公民館活動は大変重要なもので、生涯学習の発展により地域の活性化に繋がることですので、笠懸公民館と一緒に進めていて頂きたいと思えます」と話していました。

委嘱状交付式終了後に行われた、第1回笠懸町地区公民館連絡協議会全体会議で、本年度の役員が次の通り、選出されました。

- 会長
1区 星 隼人
- 副会長
2区 久保田 允隆
3区 森田 広行
(敬称略)

その後、笠懸公民館より地区公民館に関する規則等や各種制度の説明、今年度の活動計画の確認がありました。

昨年度は一昨年同様に、新型コロナウイルスの影響で、笠懸町全地区の納涼祭

が中止になるなど、地区公民館での活動もあまりできない状況でした。今年度は、感染対策をしながら、さまざまな活動に取り組み、住民と地域をむすぶ拠点として地区公民館が活用されることが期待されます。

令和4年度 笠懸町地区公民館連絡協議会名簿 (敬称略)

区	役職	氏名
1	館長	◎星 隼人
	主事	三木 康正
		富田 峻祐
2	館長	○久保田 允隆
	主事	久保田 素幸
		櫻井 伸悟
		橋本 徹
3	館長	○森田 広行
	主事	藤掛 貴志
		武井 寛
4	館長	三輪 信人
	主事	萩原 理秀
		笠原 大介
5	館長	大坪 純一
	主事	小野 清一
		小島 崇司

◎会長 ○副会長

区	役職	氏名
6	館長	石川 雅士
	主事	深澤 宏章
		荒木 順一郎
7	館長	高橋 雅彦
	主事	藤原 徹
		金塚 功
		本木 祐基
8	館長	尾崎 真也
	主事	大屋 誠
		木村 崇
9	館長	金子 正義
	主事	原田 裕明
		大澤 秀一
10	主事	岩崎 紘充
		大澤 幸広
	館長	箱田 貴大
	主事	田口 正人
		大豆生田 克巳



▲委嘱式の様子

気軽に声がけください

令和4年度笠懸公民館職員

職員

●館長 清水 勝



▲清水館長

●主査 植竹 春彦



▲植竹主査

うな環境づくりをしたいと思えます。

4月から笠懸公民館長に就任しました。新型コロナウイルス感染症は、公民館活動にも大きな影響を与えました。公民館の役割を改めて見直し、これからの公民館活動について、地域の皆さまと一緒に考えていきたいと思えます。

●副館長 小室 智美

今年で4年目となりました。新型コロナウイルスの影響が続いている中で、人と話す、一緒に活動することの大切さを実感しています。いろいろな工夫をしながら、地域の皆さんがつながり、楽しく活動できるよ

4月に笠懸公民館に異動になり勤務しています。公民館勤務は初めてで、業務内容について分からないながらも周りの職員に教わりながら事務を行っています。戸惑うこともありませんが、今後ともよろしくお願いたします。

●主事 高橋 梨華

昨年度入職し笠懸公民館配属になり、今年で2年目になります。この1年で、業務を通して様々なことを学ばせていただきました。まだまだ至らない部分が多いですが、みなさんの生活を豊かにするお手伝いをさ

せていただければと思えます。どうぞよろしくお願いたします。

会計年度任用職員

●大澤 弘江

会計年度任用職員としてお世話になっております。新型コロナウイルスも少し広がりを押さえられています。皆様方の活動が多く見受けられ、公民館も活気が戻りつつあり、私たちもこれまで以上に清掃清潔に努めて行きます。

●鈴木 由美

5月16日から笠懸公民館勤務になりました。分からないことばかりですが利用する皆さんの楽しそうな様子を見て、少しずつでも業務を覚えてその活動のお手伝いが早くできるようなりたいと思っています。

●鈴木 亜由美

会計年度任用職員として、引き続きお世話になっております。今年もいろいろと状況が変わることもあるかと思いますが、皆さんに安心して利用して頂けるよう、丁寧

な対応を心がけていきたいと思えます。今年度もよろしくお願いたします。

●井上ゆかり

今年も引き続き務めさせていただきます。井上です。まだまだコロナ禍ではありますが、サークル活動が少しずつ活気を取り戻しつつある中、皆さんから元気をいただきます。今後も皆さんがより活動しやすいように務めていきますのでよろしくお願いたします。

●高野 大海

今年度も会計年度任用職員として務めさせていただきます。現在も新型コロナウイルスが流行している状況下ではありますが、皆様が快適に公民館を利用できるように業務に励みたいと思えます。今年度もよろしくお願いたします。

シルバー派遣職員

●伊部 三代治

夜間管理業務を担当させていただきます。気楽に楽しい公民館活動を過ごせるよう、お手伝いさせていただきます。今年もよろ

しくお願いたします。

●渡邊 清

早いですがね、1年間は。もう1年も経ち、挨拶の時間が来てしまいました。体を壊し現在休んでいますが、もう少しで出勤できます。また今年も警備でお世話になります。1年間よろしくお願いたします。

●須永 勝士

今年度、新しく夜間管理業務でお世話になります。新型コロナウイルスがなかなか収まらない状況ですが、感染防止などの観点から様々なご不便をお掛けしていますが、一刻も早い収束を願っています。不慣れですが皆さまの活動に少しでもお手伝いさせて頂きます様、気持ちを引き締め務めたいと思えますのでよろしく御願いたします。



9区 ウクレレ初心者講座

5月12日(木)、笠懸第9区と笠懸公民館との共催事業で、第9区地区公民館でウクレレ初心者講座の3回目の講座が行われました。

講座では講師の加藤先生がウクレレを弾きながら14人の参加者にやさしく語りながらウクレレの弾き方を伝えていました。ウクレレを弾く注意事項として、弾く手つきについて「いい音を出すためには指は開かない方がいい」と話していま

した。講座の参加者からの「弾き疲れてくると、つい指が開いてしまう」との発言には「それは練習でがんばって開かないようにするしかないですね」と話していました。

講座は全員で「ふるさと」の合奏を行い、続けて指で押さえるコードが増える「知床旅情」も合奏しました。

終了まで30分ということとで、この講座を加藤先生と共に進めてきたウクレレサークルの方々による合奏の後、加藤先生による独奏も拝聴しました。



▲ウクレレ初心者講座

参加者からは「他の区でもこのような講座をやってくれたらいいのに」との声も聞かれました。

コラム 豆電球



「ミョウガと物忘れ」

ミョウガを食べ過ぎると物忘れがひどくなるというのは中高年の方から聞くことが多いのだが、本当なのだろうか。

心配はいらないようだ。この話にはなんの根拠もない。もし、本当だったら、ミョウガは薬事法で取り締まられているはずだ。

しかし、いったいなぜ、こんな話があるのだろうか。

昔、お釈迦様の弟子の一人にシユリハントクという人がいた。ハントクは物忘れがとてひどく、自分の名前さえも忘れることがあったそうだ。そこで、自分の名前(茗)を書いた札を首にか(荷)けて歩いていった。ミョウガは本来「芽香」が訛ったものだが、それに「茗荷」という字が当てられ、ハントクののエピソードと混ざり合って、「茗荷を食べると物忘れするようになる」といわれるようになったわけだ。

これが世の中に広まったのは、「宿屋の主人が旅人にミョウガを腹一杯食べさせて財布を置き忘れさせようとする」という落語の話が江戸時代で

人気があったためとされているようだ。しかしながら、食べ過ぎは何でもよくないものだ。

岩宿の里で古代米をつくらう！

米っこクラブ開校

今年度も、岩宿の里米っこクラブの「岩宿の里で古代米をつくらう」が始まりました。小学4年生以上の児童が対象の全8回の体験学習です。

4月23日(土)午前10時から岩宿の里公園で第1回として、古代米の種まき、サトイモの種芋植え、開校式などが行われました。青空の下、会員やボランティアの皆さんに協力してもらい、赤米、黒米の2種類の古代米の種をまき、サトイモの種芋を植え付けました。

畑から出てきた大きなミズやカエルをみつけたり、肥料のにおいに「うわっ、臭い！」とか「このお芋どつちが上」などと普段あま



▲古代米の種まき



▲サトイモ植え

り感じることもない体験を楽しんで第1回は終了しました。

また、この会のもう一つのお楽しみは古代料理研究会の方々が作ってくれる料理です、今回はサトイモのクリームシチューと古代米のチマキ(古代ハスの実入り)でした。



▲サトイモのクリームシチューと古代米のチマキ



今回は公民館主催の「お母さんと一緒教室」で講師をしている根岸恵美子さん(10区在住)を紹介します。保育士として保育園に勤務していましたが、子育てのため退職。子育て後にヘルパーの資格を取得しようと思いましたが、やはり子どもが好きということでパートで保育士に復帰しました。



▲根岸恵美子さん

前身の旧笠懸公民館主催の「ぴよぴよ教室」で2年間、現在の「お母さんと一緒教室」で10年間、先生として携わっています。核家族が増え、お母さんから子育ての相談を受けることもあり、話を聞いて親子に寄り添うように心がけています。

「やりがいもあり、子どもたちからパワーをもらっています。子どもを連れてきてくれるお母さんに感謝しています」と笑顔で話していました。

やさしさの中にも、子どもの成長に合わせたしつけや叱るということも大事にしている頼もしい先生です。

現在、講師をしているお母さんと一緒教室について「四季折々の行事を体験でき、人との関わり合いも学べる教室です。おうちで子育てしている親子やお孫さんの面倒をみているおばあちゃんたちでも、ぜひ参加してほしいですね」と呼びかけるように話していました。



▲お母さんと一緒教室で

10区育成会

廃品回収

4月16日(土)、10区育成会で春の廃品回収が行われました。

この廃品回収は、2年前の春は緊急事態宣言が出たため中止になってしまいましたが、その後は持込のみのドライブスルー方式で、感染対策をしながら年2回の回収が続いています。

今年度会長の関口敬子さんに、コロナ禍での回収について聞きました。

まず回収を続けた一番の理由は、区民の皆さんの

声で、「廃品回収はやるんかね」「子ども達のためにとつてあるよ」「天気で良かったね」等の声かけがありました。

例年、新1年生のための交通安全祈願祭から始まり、球技大会、夏祭り(八木節)、クリスマス会、カルタ練習、6年生を送る会など、子どもたちが毎年楽しみにしている行事が盛りだくさんでした。

この数年のコロナ禍では中止した行事もありましたが、感染対策をした上で行っている行事もあり、その活動を支えるための大切な資金源でもあるそうです。家庭への回収りをなく

したため、区民の皆さんとの交流も減ったことが残念だということです。

この廃品回収は区民の皆さんのおかげで成り立っていると改めて感じました。コロナ禍が落ち着き、以前のような回収が再開することを願ってやみません。



▲廃品回収の様子

防災を考える

18

大雨への警戒

6月は入梅、今年も大雨に警戒が必要な時期になってきました。自宅、勤め先、学校など日頃からよく使う道や場所のハザードマップを確認して大雨の時はどうするか考えておきましょう。また、最近の甚大な豪雨

天気予報を確認して、無理のない行動計画を立てましょう。



令和4年度 みどり市公民館主催「こうみんかんdeスタディ」

学習支援ボランティア募集中!

夏休みの子どもたちの勉強をサポートしませんか?



- ・子どもが好き
 - ・教員を目指している
 - ・就活や単位取得のためボランティア経験がほしい
 - ・退職後、自由な時間が増えた
 - ・地域に貢献したい・・・
- そんなみなさんのお申込をお待ちしております!

日時

7月26日(火)～29日(金)
 8月2日(火)～5日(金)
 【午前の部】9:00～12:00
 【午後の部】13:00～16:00

- ◇会場 笠懸公民館
- ◇対象 みどり市及びみどり市近郊に在住する高校生以上の方
- ◇謝礼 1回750円(交通費・所得税込)
 ※1日に午前・午後両方参加する場合は2回とカウントします。
 笠懸公民館に窓口・電話・メールのいずれかでお申込みください。
- ◇申込方法 ※名前、住所、電話番号、年齢、参加できる日程を教えてください。
 ※窓口・電話受付時間：火～日 9:00～17:00
- ◇申込期限 令和4年6月30日(木)まで
- ◇その他 新型コロナウイルスの感染状況により中止・変更になる可能性があります。

お問い合わせ 笠懸公民館

TEL 0277(76)2211

E-mail

kouminkan@city.midori.gunma.jp



E-mail QRコード

笠懸町婦人会 ボランティア研修

笠懸町婦人会(曲澤節会長)は、4月28日(木)、みどり市役所笠懸庁舎2階第2会議室で日本赤十字奉仕団のボランティアリーダー研修を開催しました。

日頃、さまざまな形で活動している婦人会ですが、現在のコロナ禍の中で、研修や実習などがほとんど中止になり、できない状況となっております。そんな中、今回は密を避け「赤十字の

現状と課題について」「赤十字の寄付と奉仕団の活動について」「子ども食堂の運営から考える、地域のボランティアについて」のビデオ研修を行いました。

地域のボランティアの中では、多くの人達が地域のニーズに合わせて、さまざまな形で活動しています。その様子を勉強させていただき、改めて今現在の活動を振り返る事ができました。これからも会員同士の協力により、一つ一つ考えながらボランティアの活動を広

パワー全開いい汗流す ラージボール卓球大会

みどり市民ラージボール親善卓球大会が5月4日(水)に桐生大学グリーンアリーナで開催され、みどり市内の6チーム約40人の選手が参加しました。

午前は男・女共通シングルス、午後は親善混合ダブルスのリーグ戦で行われました。

試合では40代から80代の

選手たちが年齢の差を感じさせない熱戦を繰り広げました。混合ダブルスは事務局が編成した相手と組んだとの対戦で、初めて組んだとは思えないチームワークでファイナルプレー続出でした。各コートで「いいよー!」「ドンマイ! 大丈夫!」と声が響いていました。

3年ぶりの大会で参加者もいつもより少なかったようですが、参加者は「疲れただけ楽しかった。久しぶりにみんなに会えてよかつ

げていきたいと思う研修会でした。



▲研修の様子

た」と汗を拭きながら笑顔で話していました。

第12回みどり市ラージボール親善卓球大会 優勝者(敬称略)

組(ブロック)	男子シングルス	女子シングルス	親善交流ダブルス
A組	石井 仁	頓所 和子	駒場 渉・高橋 洋子
B組	引田 康二	市川ミサ子	西谷 泉・滝原 秀子
C組	羽廣 忠之	中島きみよ	中山 隆・石澤 哲子

こえの ひろば

投稿

列車にゆられて(5)

弘南鉄道

野利 哲

弘南鉄道は青森県弘前市を中心として、弘南線(弘前〜黒石 16.8km)と大鰐(おおわに)線(中央弘前〜大鰐13.2km)の2線を運営しています。

弘南線はJR弘前駅を出



▲弘南鉄道

このコーナーは、市民のみなさんの交流の場です。サークルの会員募集やイベントのお知らせ、投稿など、何でも原稿をお寄せください。(しめきり毎月10日)

と、左に秀麗な岩木山を見て田園地帯を軽やかに走ります。地方では珍しく電化されています。変化の乏しい光景の中、約40分で終点の黒石です。下車して地元の方に声をかけました。「50年前、蒸気機関車の撮影で国鉄黒石線(現在は廃止)を利用して黒石市に来ました。その時、雁木づくりの街並みを歩いた記憶があるのですが」と尋ねると、「それは中町こみせ(※)通りですよ。時間があれば訪ねて下さい」と勧められました。時間がなかったので割愛しました。日を改めて訪ねたいと思いました。

大鰐線は弘前駅から徒歩で約15分の所にある中央弘前駅が起点となります。駅から歩いて約5分の所にレング倉庫美術館、そして約800mの所に弘前城があります。列車は駅を出て市街地を過ぎると、右手に岩

木山を見ながらリンゴ畑の中を通り抜けます。奥羽線を高架で渡るとまもなく終点の大鰐です。JR線と同じ駅舎ですが、JR線は大鰐温泉駅、弘南鉄道は大鰐駅という駅名でした。共に生活の匂いのする路線でした。

運賃(片道)

弘前〜黒石 片道470円
中央弘前〜大鰐 440円
フリーキップ(大黒様きっぷ)は両線共用で1000円

(※)こみせ
重要伝統的建造物保存地区で藩政時代から残る木製の庇(よき)は暑い日差しを遮り、冬は吹雪や積雪から人々を守る



▲車窓から見る岩木山

笠懸短歌サークル

四月例会より

寒暖差強き春日の桜道ダウンの若者ベンチに身を寄す

遠き夢追いつづけるも我が身にはもどかしきかな短歌の調べ

友と集ひ「源氏」を読みて半世紀庭の藤花今年も咲き継ぐ

桜吹雪朝陽を受けてうっすらと庭に積もりぬ蝶舞ふごとくに

ムスカリを愛しと詠みし人ありき今草刈機にて踏みしだきゆく

マスクして表情見えぬ怖さありわれの意見に異をとなふ人



上村 征子

加藤 康子

久保田茂子

近藤ふさ子

関口 定夫

平山 勇

第21回みどり市笠懸地域郷土芸能祭 開催

開催期間 [展示部門] 6月17日(金)〜19日(日)
午前9時〜午後5時
(17日は午後1時から 19日は午後4時まで)
[ステージ部門] 6月19日(日) 午前11時〜午後4時
会場 グンエイホール・パル
主催 みどり市笠懸地域文化協会
問い合わせ先
みどり市笠懸地域文化協会 会長(手塚) TEL (76) 7440

群馬の湖を漕ぐ

四万ブルー

ニッコロ



▲幻想的四万ブルーの世界

渋川方面から四万温泉へ向け国道353号線を進むと、途中左手に中之条ダムがあります。中之条ダムというよりも四万湖と言った方がご存じの方も多いかもしれません。SNS上「四万ブルー」で有名なダム湖です。

小さなダムの上を渡った先にある公園からカヤックやSUPを出艇させますが、そこから広がる景色を見た人は必ず息をのみまです。その湖水は実に幻想的で、特に梅雨入り前の5月〜6月は周囲の新緑も映え、信じられないようなターコイズブルーの世界が



▲四万ブルーを見下ろすような四万川ダム

広がります。

小さな湖で、流れ込む四万川を1kmくらい遡ることので「四万ブルー」を堪能できます。小さいながらも美しく、年間を通して水量も一定なので、初心者や観光向けの湖で、休日は地元ツアー会社が企画するSUPツアーで賑わいます。

「四万ブルー」はもう一つ、さらに10kmほど上流に位置する奥四万湖(四万川ダム)の青は四万湖よりさらに深いコバルトブルーです。以前CMで女優の吉永小百合さんが「大人の休日」に訪れた湖で、やはり5〜6月が最も青の映える季節です。

テクテクお城歩き(28)

新発田城 歩遊人

新潟県新発田市にある新発田城は日本100名城の一つです。文献などによれば初代藩主溝口秀勝は尾張の出身で1598年、豊臣秀吉の命で6万石を与えられ、大聖寺から新発田に入封しました。新発田城の築城は入封から56年後の1654年3代宣直のときに完成しました。本丸は実

質上の天守として3階櫓が築かれました。丁字型の屋根に3匹の鯨が載る特徴ある櫓で2004(平成16)年秀勝公入封400年記念事業として、3階櫓と辰巳櫓の復元事業が図面を参考に再建されたといえます。

なお、赤穂義士のひとり堀部安兵衛は新発田生まれで、辰巳櫓の管理責任者であった安兵衛の父、中山弥次右衛門は失火の責任で浪人となり、息子の安兵衛は18歳の時家名再興のため江

戸に出たとあります。江戸に出た安兵衛は高田馬場の決闘の助っ人として名を挙げたことから赤穂藩の浅野家家臣から乞われ養子となり、後に赤穂義士となりました。



▲新発田城

上毛かるた(き)

御朱印レディー

「桐生は日本の機どころ」

桐生の織物の歴史は古く、1300年ほど前に始まりました。

江戸時代になって、京都から伝わり「西の西陣、東の桐生」と言われ、機織りの街として栄えました。

製糸や織物の技術を京都から桐生へ初めて伝えたのが白瀧姫とされ、姫を祀る

のものです。



▲白瀧神社の御朱印

平成27年に「かかあ天下ーぐんまの絹物語り」で日本遺産として登録されました。

御朱印について桐生市文化財保護課に問い合わせたところ、令和3年までは、あったが現在は書いていないとのことでした。(写真の御朱印は、書いていた頃

感染防止対策に引き続きご協力をお願いします。



みどモス

みどり市地域おこし協力隊

安西

みどり市地域おこし協力隊の安西です。観光振興・情報発信の分野で、2019年4月から、東町地域を拠点に活動しています。着任して丸3年が過ぎ、本来であれば3年間で任期満了のところ、新型コロナウイルス感染症の影響による国の特例で任期延長となり、今年度も引き続き、みどり市地域おこし協力隊として活動させていただくことになりました。

笠懸公民館でも、一昨年の12月にワークショップの開催を予定していましたが、コロナウイルスの影響で残念ながら中止となりました。また、改めて笠懸公民館でもワークショップを開催できればと考えています。

さて、活動拠点である東町地域では、4月上旬〜中旬にかけて「小夜戸・大畑花桃街道」の花桃が見頃を迎えました。地域の皆さんが、30年以上前から大切に

に植え、育ててきた花桃で、約2kmの花桃街道に、1500本もの花桃が咲き誇っています。

みどり市地域おこし協力隊では、昨年引き続き、竹灯笼の製作・展示をした他、今年初めて開花期間に合わせて花桃街道・駐車場内への出店を行いました。コロナ禍で約2年間イベント等が開催できていない中、今回もまだ従来のお祭りの形ではありませんでしたが、たくさんの方にお越しいただくことができ、とても良い機会になりました。今後イベント出店や企画を考えていますので、よろしくお祈りします。



▲小夜戸・大畑花桃街道

四季の会 五月句会

風薫る胸に飛び込む児の笑顔
芍薬の広き庭園ランチどき

杉落葉拾ふ生家の庭籠

武者人形となりて吾子のアンパンマン
自動ドア開けば入り来夏落葉

梵鐘の音色ひびくや桐の花
桐箆笛あける抽斗衣更え

ネモフィラの絶景の丘まごも連れ
手を掛けし数多の薔薇咲きほこる

釣糸を垂るるダム湖や合歓の花
実の膨らみし豌豆を摘む畑

蔵町の古き錠前くす若葉
桐だんす鉋で削る薄着かな

ふつくらと色ます真紅バラの花
人形の修理頼まる端午かな

竹山を夜ごと徘徊ふくろ角
薄物の着物を畳む屋下り

シヤンシヤンと松蝉の鳴く山の宿
夏つばめ滞在長き海の宿

咄家の高座に上がる単かな
新緑を浴びて秩父の川下り

アカシアの花の咲き初む桐生川
焼まんじゅう買ひ行く店の若葉風

川蟻の生ゆる生家の小川かな
聞こへ来る祭囃子や夢の中

曼陀羅や稚児を従へ練供養
夏わらび友の届け来夕厨

新緑の山道抜ける露天の湯
地場産の新茶いたたく昼下がり

飛魚の嫁が煮付ける吾の味
筍飯を子らの昼餉に作る朝

山を這ふ卵の花腐し湖の宿
燃ゆる朱つつじの山は真っ盛り

中野 千鶴
宮本 風花
糸井 良俊
松島 陽春
平川 秋桜
佐藤由美香
高野 春蝶
窪田 友美
中谷 邦女
金井 英磨
高野 光詢
糸井 佳酔
窪田 劍邦
前原 紫蘭
童 鳥海
糸井 梅光
横倉 雅
韓 百日紅
新羅 光海
石原 青蓮
冠 二郎
徳田 夕子
村田 紅蘭
糸井 初音
小川 狐一
吉田 和義
小林 華笑
金井 光順
楮沢 春蘭
宇野由希子
村田 小町
宇野 勘大
金 光月

ちょっと一息



令和4年度、4月から大きく変わった事があります。民法の改正で4月から大人になる年齢が、これまでの20歳から18歳に引き下げられました。

最近、メディアでいろいろ取り上げられています。筆者も該当する子どもが3人(大学生1人、高校生が2人)います。

本人達に私の方から感想を聞いたところ、「実感はまだ感じないが、これからは大人の自覚を持った行動、大人の一員として恥ずかしくない行動を取っていきたい。また、これから世の中に對し自ら勉強し大人の一人になりたい」との言葉を聞きホッとしたところです。

“大人”といってもまだまだ子ども。今まで以上に子どもたちとコミュニケーションを図り世の中の為に要られるような人に導いていこうと親として改めて感じました。

(KN)